



# 2024年6月期 決算説明会

株式会社ビーブレイクシステムズ

(東証グロース：3986)

2024年8月21日

代表取締役社長 白岩 次郎

# 本日の内容



- 1 会社概要
- 2 2024年6月期 決算概要
- 3 2025年6月期 業績予想
- 4 成長戦略
- 5 参考資料

1

# 会社概要

# ビークレイクとは

- ✓ 世界的に需要が多いJava言語で開発を行うソフトウェア会社
- ✓ 社長含め役員は50歳前後、社員の平均年齢は30代前半
- ✓ 2005年より「MA-EYES（エムエーアイズ）」という  
自社独自開発の基幹業務パッケージ（ERP）を開発・販売している
- ✓ 2002年の創業以来、リーマンショックや新型コロナ禍の時期含め  
22期全て黒字計上
- ✓ 2009/6期より継続的に配当実施中
- ✓ 今回、配当方針の見直しを行い、株主価値の向上を目指すべく、  
配当性向の目標を引き上げ
- ✓ 売上高約14億円に対し、現預金約19億円あり、財務も健全

# 会社概要



(2024年6月末時点)

会社名	株式会社ビーブレイクシステムズ
設立	2002年7月
資本金	2億3263万円
代表者	代表取締役社長 白岩 次郎
事業内容	①パッケージ事業 サービス業向けクラウドERP「MA-EYES」等の製造・販売 ②システムインテグレーション事業 システムの受託開発およびIT技術者派遣
本店所在地	東京都品川区東五反田2-10-2
拠点	関西支社（大阪市）、名古屋営業所（名古屋市）
従業員数	148名
社名の由来	情報システムを構築する際の障害(“B”arrier)や境界(“B”order)を破壊(Break)することを実現したいとの思いから
企業理念	一、世界が認めるシステム及びサービスを世に広める活動を通じて、 社会の発展に貢献する 一、従業員は常に一流を目指す

# 会社概要：創業の経緯



創業者であり代表取締役社長である白岩次郎は、マウスもWindowsもなかった時代に、自作のゲームプログラムをパソコン雑誌に応募するような少年であった。



高校時代に周りの優秀な友人たちに負けたくないとの思いから、起業を強く意識するようになる。  
大学時代には「**20代で会社を作って独立する**」と周囲に宣言

新卒時には、「将来会社を運営するときに必要となるスキルを得る」ために銀行を選択。  
都内支店及び国際金融開発部にて勤務



3年後、ITで起業することを考え、ERPの世界的大手であるSAPジャパンに転職し、ERP導入コンサルに。システム開発に存在する非効率やムダの存在を知り、企業向けシステムの開発を簡単・効率的に行えるソフトウェア（現在のMA-EYESの原型となるもの）を着想

**2002年に29歳で当社設立**

2

## 2024年6月期 決算概要

# 決算ハイライト



- **売上高は、前期比+0.9%の1,392百万円**
  - 売上高は過去最高を更新
  - パッケージ事業は横ばい、システムインテグレーション事業は増収
- **営業利益は、前期比▲13.8%の152百万円**
  - 主に人件費の増加（社員数増・待遇改善実施）により営業利益は減益に
- **当期純利益は、日本社退去による補償金収入などにより、前期比ほぼ横ばいの136百万円**

売上高

**1,392**百万円

前期比 +0.9%

営業利益

**152**百万円

前期比 ▲13.8%

当期純利益

**136**百万円

前期比 +0.2%

# 2024年6月期 決算概要



- パッケージ事業は上半期、既存ユーザーから法改正対応の追加受注が多くあったが、下半期にはこれらの受注が減少。また、SaaS版の複数の新規案件の初期導入部分について、収益認識基準適用により会計上の売上・利益を繰り延べる（翌期以降に計上する）こととなった
- パッケージ事業から一部エンジニアをシステムインテグレーション事業にシフトさせ増収を確保するも、人件費や移転に関する諸費用の増分をカバーしきれず営業利益・経常利益は減益に
- 当期純利益は、営業利益・経常利益のマイナスを旧本社退去に伴う補償金収入によりカバーし、前期比でほぼ横ばいに

単位：百万円	2023/6期 実績	2024/6期 実績	前期比		2024/6期 計画	計画比	
売上高	1,379	1,392	+ 12	+ 0.9%	1,450	▲58	▲4.0%
営業利益 [利益率]	176 [12.8%]	152 [10.9%]	▲24	▲13.8%	185	▲33	▲17.8%
経常利益 [利益率]	176 [12.8%]	152 [10.9%]	▲24	▲13.8%	185	▲33	▲17.8%
当期純利益 [利益率]	136 [9.9%]	136 [9.8%]	+ 0	+ 0.2%	170	▲34	▲19.7%

EPS（一株当たり純利益）：89.67円

ROE（自己資本利益率）：8.6%

## 1 パッケージ事業

・クラウドERP **MAEYES** の開発および販売

### 【一括導入版】

指定の環境にインストールして利用  
“開発規模”によって価格を決定

初期導入費用・・・1000～3000万円\*  
保守費用・・・・・・初期費用に連動  
追加開発費用・・・・開発規模に依存

### 【SaaS版】

カスタマイズ有 → SaaS+ / 無 → ノンカスタム  
必要な機能のみを月額料金制で利用  
“利用者数”に応じて料金変動  
初期導入費用・・・0～500万円\*  
月額利用料・・・・利用者数に連動  
追加変更費用・・・・作業量に依存

\*金額は目安であり、この範囲外のものもあります

フロー型売上 = 初期導入費用

ストック型売上 = 保守費用、月額利用料、追加開発費用

## 2 システムインテグレーション事業

- ・顧客現場への常駐によるシステム開発支援
- ・常駐する技術者のスキル・経験年数等により月額単価が決定
- ・契約は1ヶ月単位で、稼働時間によって請求額が変動

# 両事業の比較・位置付け



パッケージ事業	事業セグメント	システムインテグレーション事業
クラウドERPの開発・保守	事業内容	顧客システムの構築支援
請負	契約形態	主に委任または派遣
800百万円 (57%)	売上高	592百万円 (43%)
389百万円 (74%)	利益	136百万円 (26%)
48.7%	利益率	23.0%
67名	配置人員数*	54名
景気変動の影響を受けやすい	特徴	景気変動の影響を受けにくい
「重点事業」 リソースを投入し拡大を図る	位置付け	「安定事業」 パッケージ事業へのリソース供給源 開発案件のトレンドやノウハウ吸収 パッケージ顧客化 (クロスセル)

\*配置人員数は、2024年6月末時点、その他は2024/6期実績

## ■ 2つの事業に取り組む理由

- 2つの事業を実施することで、**パッケージ開発の繁閑**による人員余剰or不足を**自社内のリソースで調整**し、また、景気変動による影響を極小化し、**安定した売上を計上**することが可能
- システムインテグレーション事業で多様な技術要素に触れることにより、技術的なノウハウを収集し、**自社の技術力アップ**に貢献している

# セグメント別売上

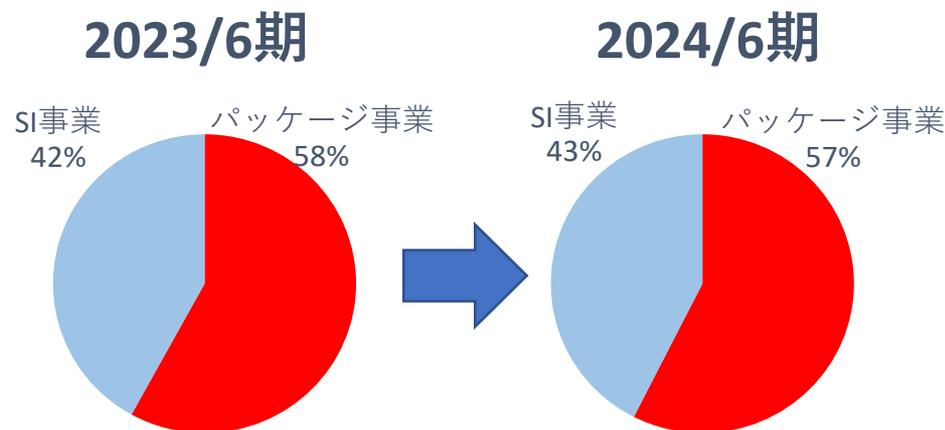
## ●パッケージ事業

新規受注は、一括導入版減少分と同等規模をSaaS+の受注でリカバー

SaaS+の初期導入部分は当期売上が減少（翌期以降に繰り延べ）となったが、ストック型売上（主に保守、追加開発）の増加等により売上高は横ばいとなった

## ●システムインテグレーション事業

堅調なIT需要を背景に受注は安定的に推移  
一部人員をパッケージ事業から移動し増収

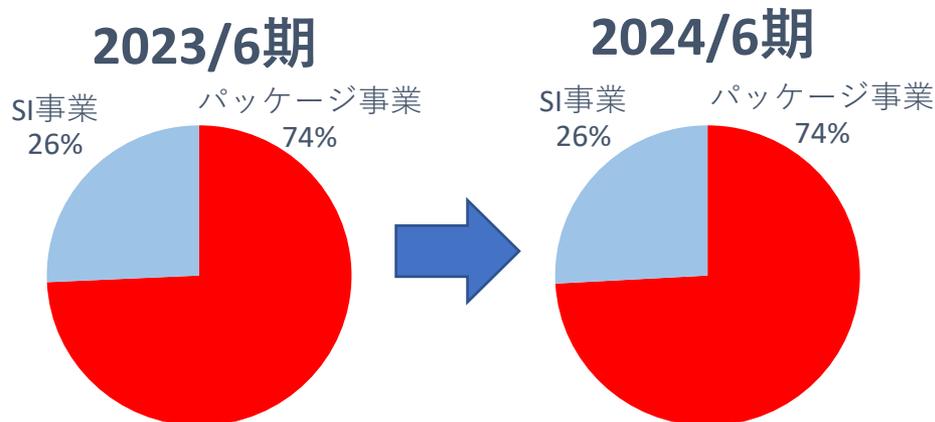


単位：百万円	2023/6期 実績	2024/6期 実績	増減額	増減率
売上高	1,379	1,392	+12	+ 0.9%
パッケージ事業	800	800	▲0	▲0.0%
システムインテグレーション事業	579	592	+ 13	+ 2.2%

# セグメント別利益

●パッケージ事業  
利益率の高いストック型売上等が増加したことからやや増益

●システムインテグレーション事業  
利益率は大きく変わらず、微増

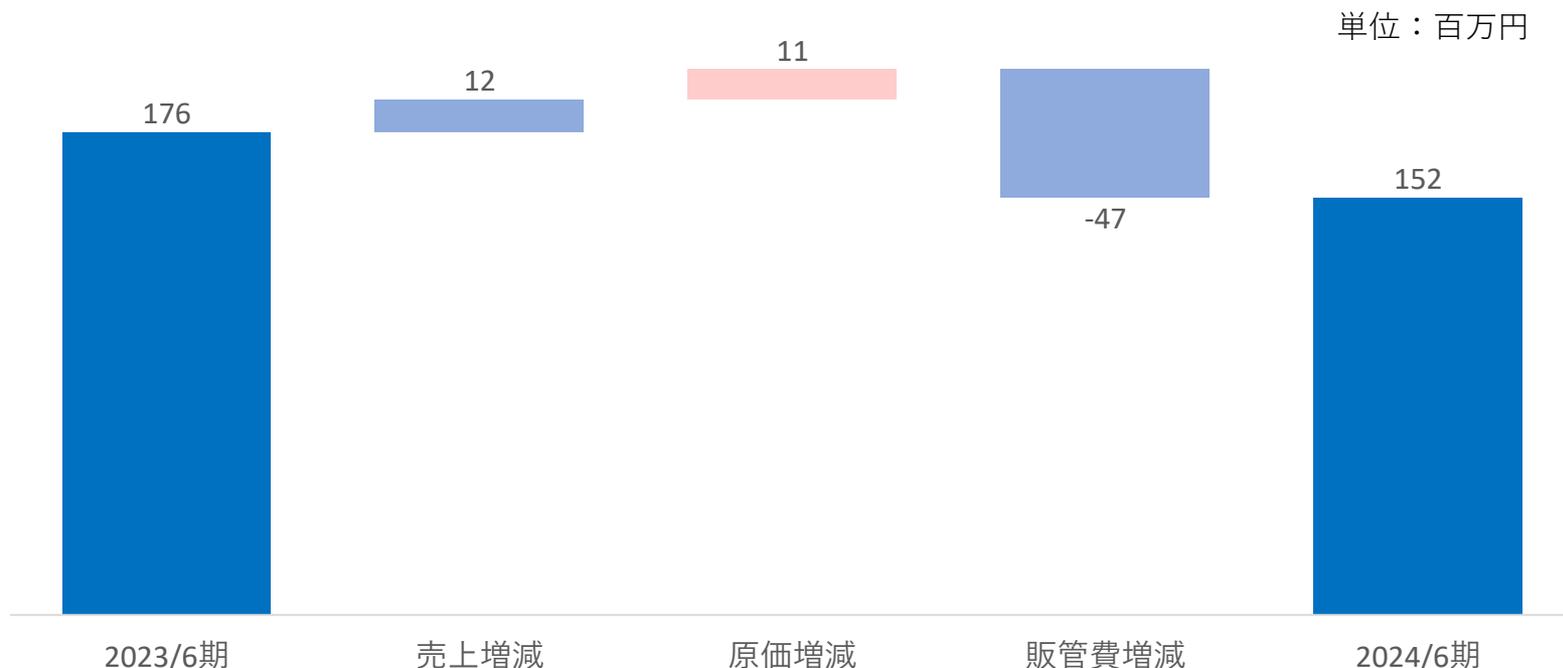


単位：百万円	2023/6期 実績	2024/6期 実績	増減額	増減率
セグメント利益	517	525	+ 8	+ 1.6%
パッケージ事業	384	389	+ 5	+ 1.4%
システムインテグレーション事業	133	136	+ 3	+ 2.1%

# 営業利益の増減要因



- 売上高が微増ながら、利益率の高い（原価率の低い）パッケージ保守売上が増加したこと、及び原価率の高いシステムインテグレーション事業の外注による売上が減少したことなどから、原価は減少
- 一方で、これらを上回る販管費の増加があり、営業利益は減少
- 販管費増は主に人件費（社員数増、待遇改善の実施）、移転に伴う諸費用（地代家賃、減価償却費）及び広告宣伝費の増加



# 当期の事業概要：開発



## クラウドERP「MA-EYES」の機能拡張(アプリケーション部分)

メインターゲットである主要5業種※向けの機能拡張を継続して行っております。

※主要5業種＝システム、派遣、広告、インターネット、コンサル

### 2024年6月期の主な開発実績：

1. WebAPI連携機能の追加
2. 汎用分析機能の追加
3. 過去対比月別売上・利益機能の追加
4. ClimberCloud「Web請求」機能との連携機能追加
5. 人件費差異確認機能の追加
6. 仮締め機能の追加
7. Web請求書発行/受取機能の追加
8. ユーザーインターフェースの全体的な改善
9. モバイル版の拡張



# 当期の事業概要：販売①



## 販売強化施策

- ✓ 営業担当の増員
- ✓ クラウドERP「MA-EYES」等が経済産業省・中小企業庁が推進する「サービス等生産性向上IT導入支援事業費補助金（通称「IT導入補助金2024」）」の補助金対象ITツールとして登録されました。



**IT導入補助金2024**

令和5年度補正サービス等生産性向上IT導入支援事業

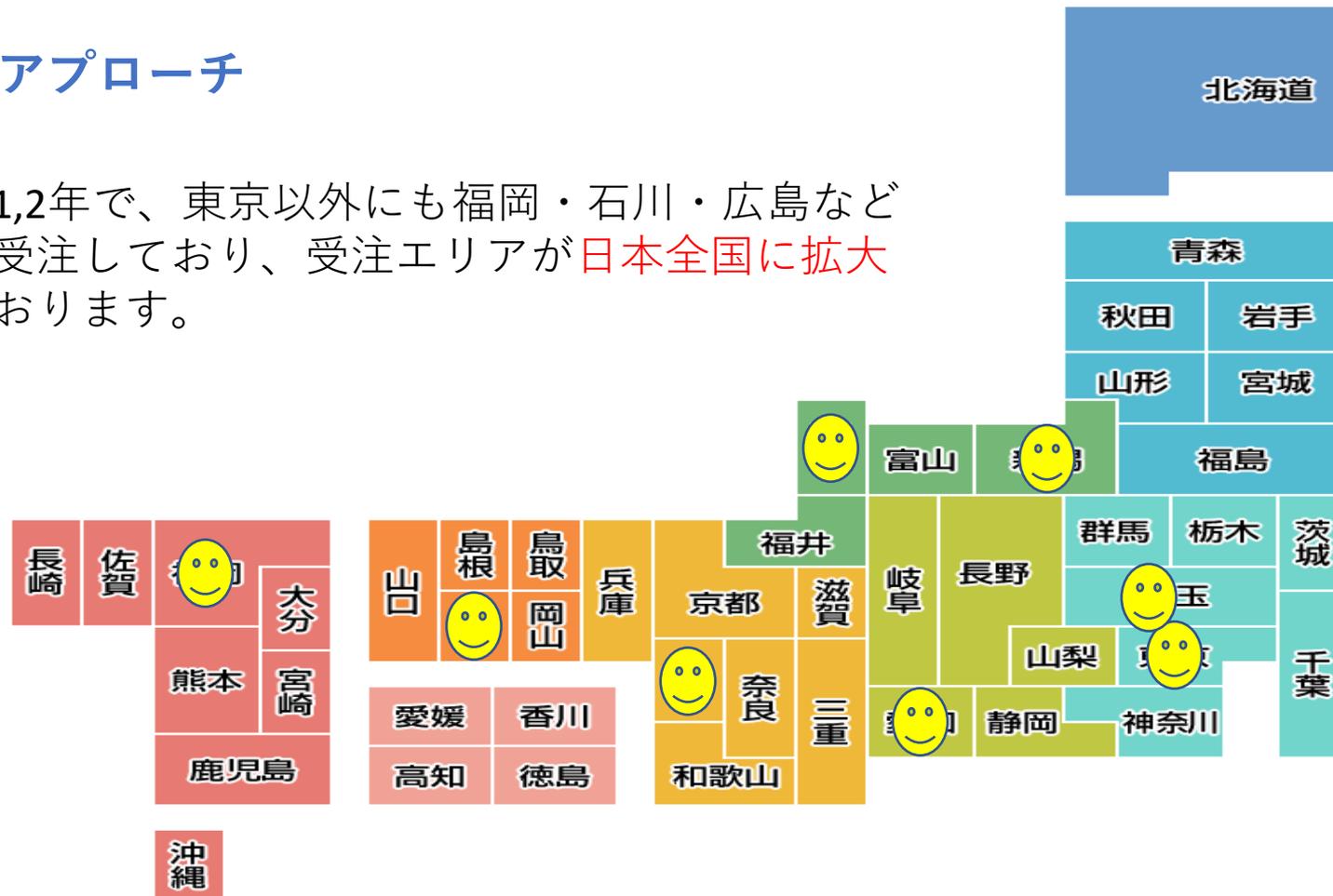
## 他社製品販売が好調

- ✓ 過去にMA-EYESを受注した企業からの他社製品販売の受注件数が増加
- ✓ 他社製品であるClimberCloud、奉行シリーズ、TrustLoginなどのクラウド関連製品の販売が好調

# 当期の事業概要：販売②

## 地域アプローチ

ここ1,2年で、東京以外にも福岡・石川・広島などから受注しており、受注エリアが日本全国に拡大しております。



# 当期の事業概要：販売③

## 電子帳簿保存法対応クラウドサービス「ClimberCloud」との連携利用増

株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・ビジネスブレインズが提供する「ClimberCloud」とクラウドERP「MA-EYES」との連携利用に関して、直近においても既存客や新規受注先への導入が決まっております。



電子帳簿保存法対応だけでなく、ワークフローの電子化、社内業務のDX化など、お客様の経営基盤の強化にITの力でこれまで以上に貢献

# 当期の事業概要：本社の移転



## 本社を移転しました

- ✓ 前入居ビルより建て替えに伴う移転要請を受けたため、2023年11月下旬に東五反田スクエアに本社を移転
- ✓ 移転に伴い発生する一時的な支出については、退去補償金によってカバーされている

## 移転のメリット

- ✓ **オフィスのキャパシティ増**  
→ フリーアドレスを導入し将来の社員数増も対応可能に
  - ✓ **設備アップグレード**  
→ 社員の作業効率向上、Webミーティングの増加に対応
  - ✓ **オフィス環境の改善**  
→ 社員満足度アップ、離職率低下へ  
→ イメージアップ、採用数増加への効果を期待
- ⇒ 当期社員数増を余裕で吸収、今後の会社成長の土台となる



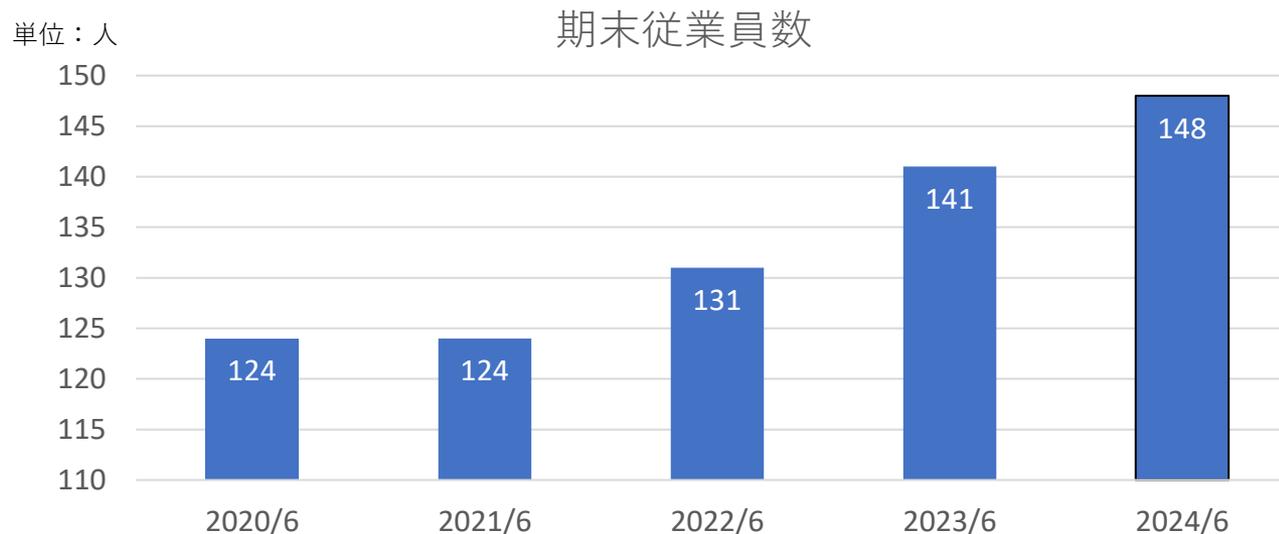
東五反田スクエア外観図

# 当期の事業概要：従業員数



## 従業員数の継続的増加

- ✓ 全国的に人手不足の環境下にあるが、成長力の源泉である従業員数については、新卒中心の採用施策が功を奏し、**過去最高人数を連続で更新中**
- ✓ 採用が新卒中心になることで、その教育コストの負担や、技術者が一人前になるには数年かかることから、短期的には収益圧迫要因となり得るが、**長期的な目線では会社の利益に貢献する**と見ており、本方針は継続する予定



3

## 2025年6月期 業績予想

# 2025年6月期業績予想



- 重点事業である**パッケージ事業**においては、**研究開発活動の継続**による機能追加や機能改善、及び広告宣伝費の継続した重点的投入等の施策により、持続的な成長を図る。特に、**需要の一括導入版→SaaS版への移行**を捉え、短期的には売上・利益の減少要因となるが、**この対応に注力し、中長期的な売上・利益の拡大**を目指す
- システムインテグレーション事業**においては、引き続き世の中の**エンジニア需要が旺盛**であることから、安定的な売上計上を見込んでいる
- 以上により、営業利益ベースでは増益を見込むが、上述の通り、引き続き研究開発活動に相応の工数を投入する方針であること、及び、パッケージ需要のSaaS移行が短期的には売上・利益の減少要因となることから、増益幅については小幅に留まる見込み。また当期純利益については、前期の特別利益による押し上げ幅が大きかった反動により減益となる見込み

単位：百万円	2024/6期 実績	2025/6期 予想	増減額	増減率
売上高	1,392	1,409	+ 17	+ 1.3%
営業利益	152	160	+ 8	+ 5.2%
経常利益	152	160	+ 8	+ 5.2%
当期純利益	136	126	▲10	▲7.7%

予想EPS（一株当たり純利益）：82.80円

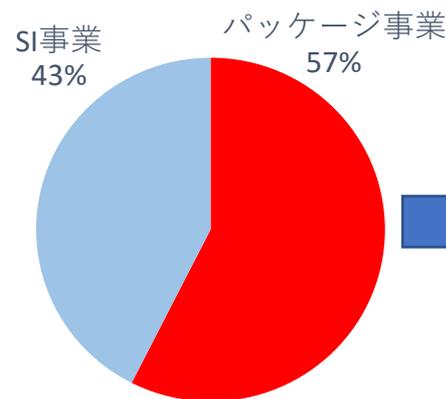
予想ROE（自己資本利益率）：7.4%

# セグメント別売上予想

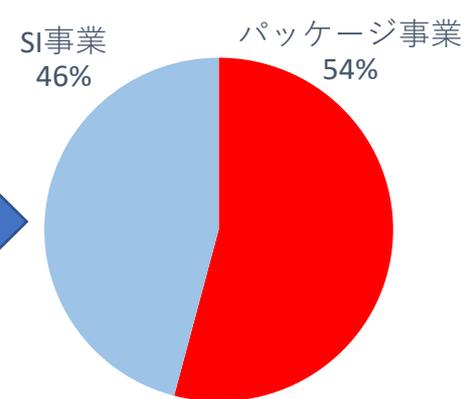
●パッケージ事業  
 需要及び受注の一括導入版からSaaS版への移行により、翌期以降に繰り延べられる売上が増加することから、短期的には減収となる見込み

●システムインテグレーション事業  
 引き続き旺盛なエンジニア需要を背景に増収となる見込み

2024/6期



2025/6期



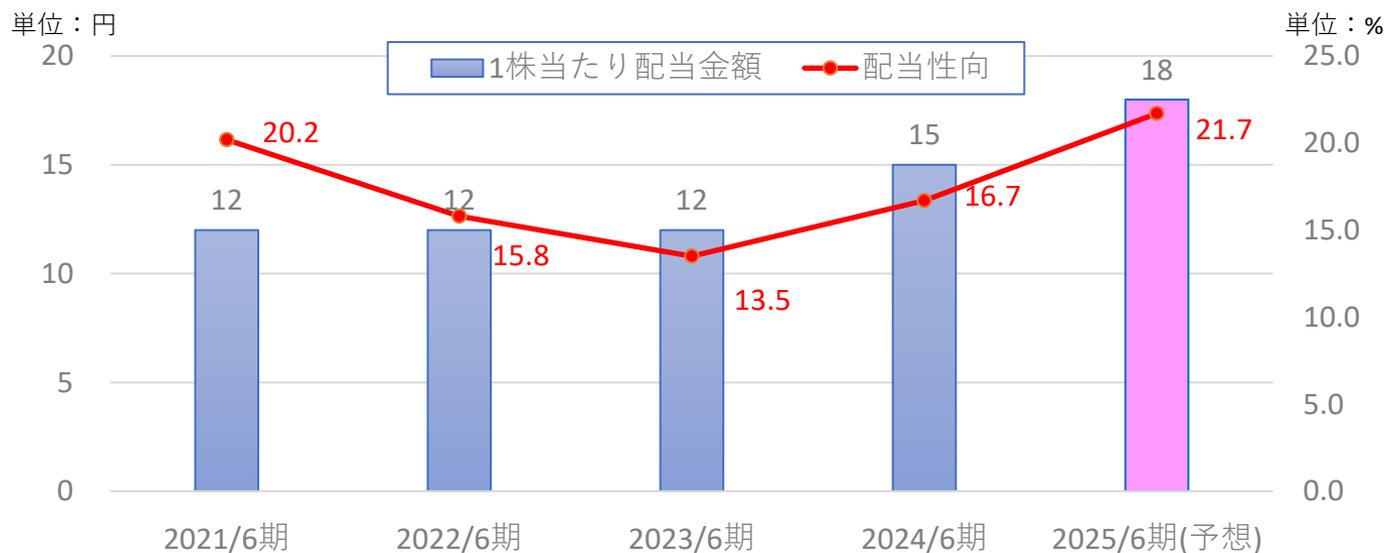
	単位：百万円		2024/6期 実績	2025/6期 予想	増減額	増減率
売上高			1,392	1,409	+17	+1.3%
パッケージ事業			800	763	▲37	▲4.6%
システムインテグレーション事業			592	647	+55	+9.4%

# 株主還元



## 配当性向に関する方針と予想配当

- 当社はこれまで「財務の健全性、競争力強化に向けた投資機会等を踏まえた内部留保の確保の重要性に留意しつつ、業績に応じた配当を実施することとし、配当性向10%～15%を目標」としてきたが、この度、株主価値の向上を目指す上で**株主還元の一層の充実**が必要と判断し、配当性向「**20%～30%程度を目標**」とする方針に変更することを決定
- 2025年6月期の予想配当は、上記新方針に基づき、2024年6月期より3円増額の**1株当たり18円**（配当性向21.7%）



4

# 成長戦略

# 市場動向①

## DX（デジタルトランスフォーメーション）



### ➤ 日本企業の競争優位性確立の為に、当社事業による業務効率化・業務変革を推進

- **これまでの経緯：**

スウェーデンのウメオ大学、エリック・ストルターマン教授が2004年に提唱。日本政府においても経済産業省や総務省が中心になり、DXを積極的に推進。

- **経済産業省によるDXの定義：**

企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、**業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立**すること

- **ビーブレイクシステムズの対応：**

企業の業務効率化による競争優位性確立 → パッケージ事業

ITによる企業の業務変革のサポート → システムインテグレーション事業



**企業のDXの推進の動きは、そのまま当社事業の目指すところと同じ**

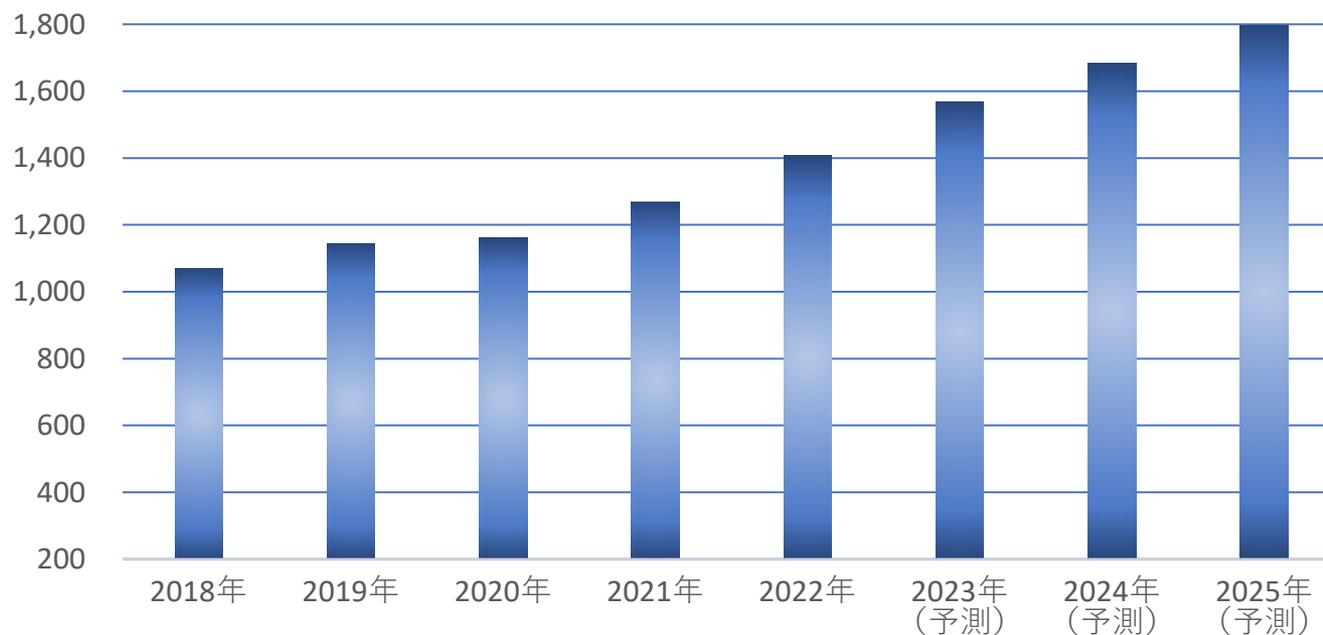
# 市場動向②

## 国内ERPライセンス売上高



2021年には先送りにされた**案件の多くが順当にスタートし、市場を押し上げ**。2022年は、2021年をさらに上回る成長を遂げた。**ユーザー企業のIT投資に対する意欲が引き続き旺盛**であり、また「2025年の崖」問題や急速なビジネス環境の変化に対応すべく、**クラウドERPの導入が増加**すると予想されている。

単位：億円



出展：株式会社矢野経済研究所「ERP市場動向に関する調査を実施（2023年）」（2023/12/13）

# 市場動向③

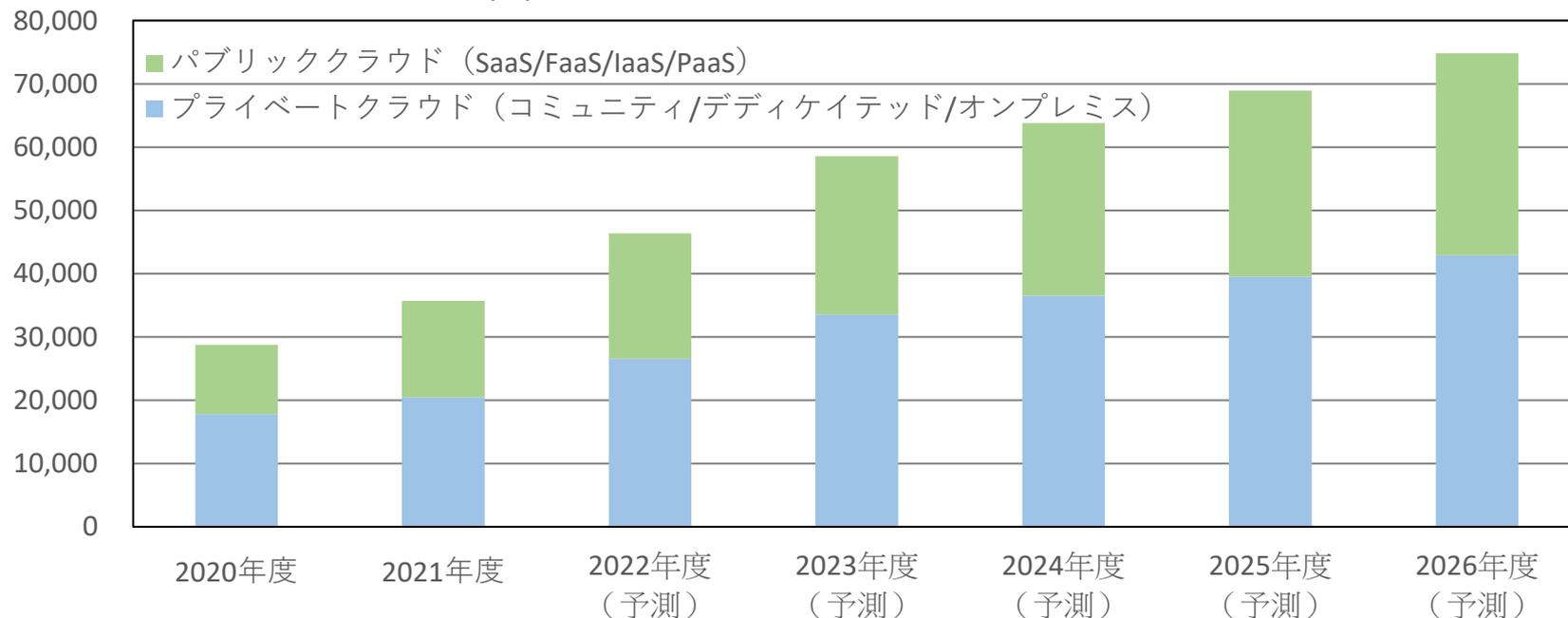
## 国内クラウドサービス市場



大規模な設備投資を必要としないことや、システム規模に応じた拡張性などの**導入メリットが広く認知**され、インフラ構築に**欠かせないサービスとして定着**。拡大基調は**今後も続く**と予想されている。

### 国内クラウド市場 実績と予測

単位：億円



出展：株式会社MM総研「国内クラウドサービス需要動向調査」（2022年8月24日発表）

# 成長戦略① - 1 事業ポートフォリオ

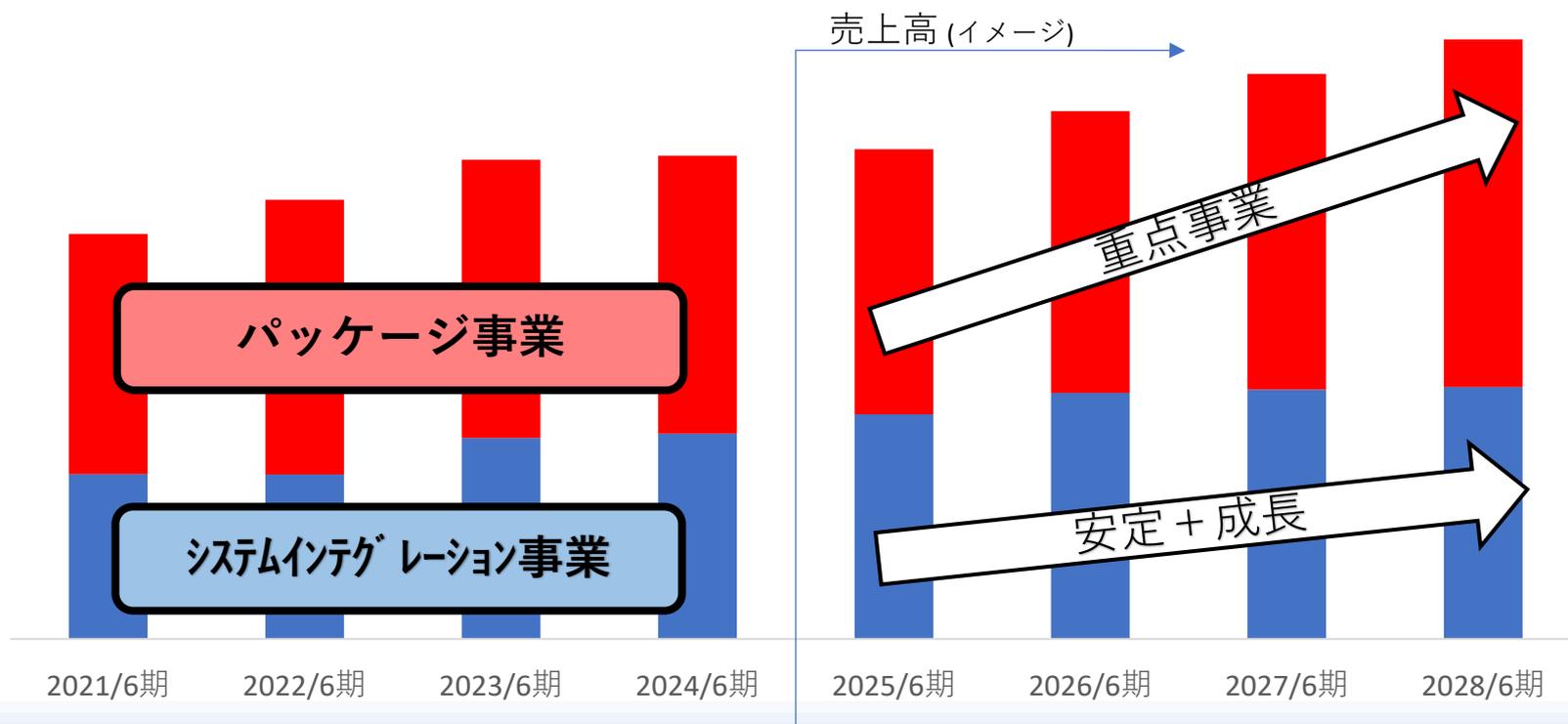


## パッケージ事業

重点的にリソースを投入し、拡大成長を図る  
SaaS版中心に販売することで中長期的に伸び幅拡大を見込む

## システムインテグレーション事業

従来の常駐型ビジネスで安定的な利益を計上しつつ、  
Humalance※・人材紹介事業等により拡大成長を図る  
※フリーランス向けの案件紹介サイト



# 成長戦略① - 2

## 事業ポートフォリオ



### ➤ パッケージ事業に重点を置きながら、両事業のシナジー効果を創出していく

#### ● パッケージ事業（システムインテグレーション事業より重点を置く）

★ 主要5業種（システム、派遣、広告、インターネット、コンサル）のシェア拡大、特にシステム業では受注時トップシェアを目指す

★ 新規はSaaS版を強化することでストック型売上がより積み上がる状態にシフト  
中堅案件はSaaS+ に注力、中小案件はノンカスタマイズSaaSを拡販

★ 利益率の高いリピート受注を拡大、受注機会を逃さぬようにリソース確保

- ・ 主要5業種以外への進出
- ・ 関連商材によるPKG新規受注機会拡大、関連商材売上・利益拡大

#### ● システムインテグレーション事業

★ Humalanceによる上質な開発リソースの確保、社員技術者のアサイン増

★ 既存取引先との取引深耕

- ・ 主要5業種以外への関連商材の販促→パッケージ販売に繋げる
- ・ 人材紹介ビジネスの拡大

優先対応事項 = ★

#### < 事業シナジー >

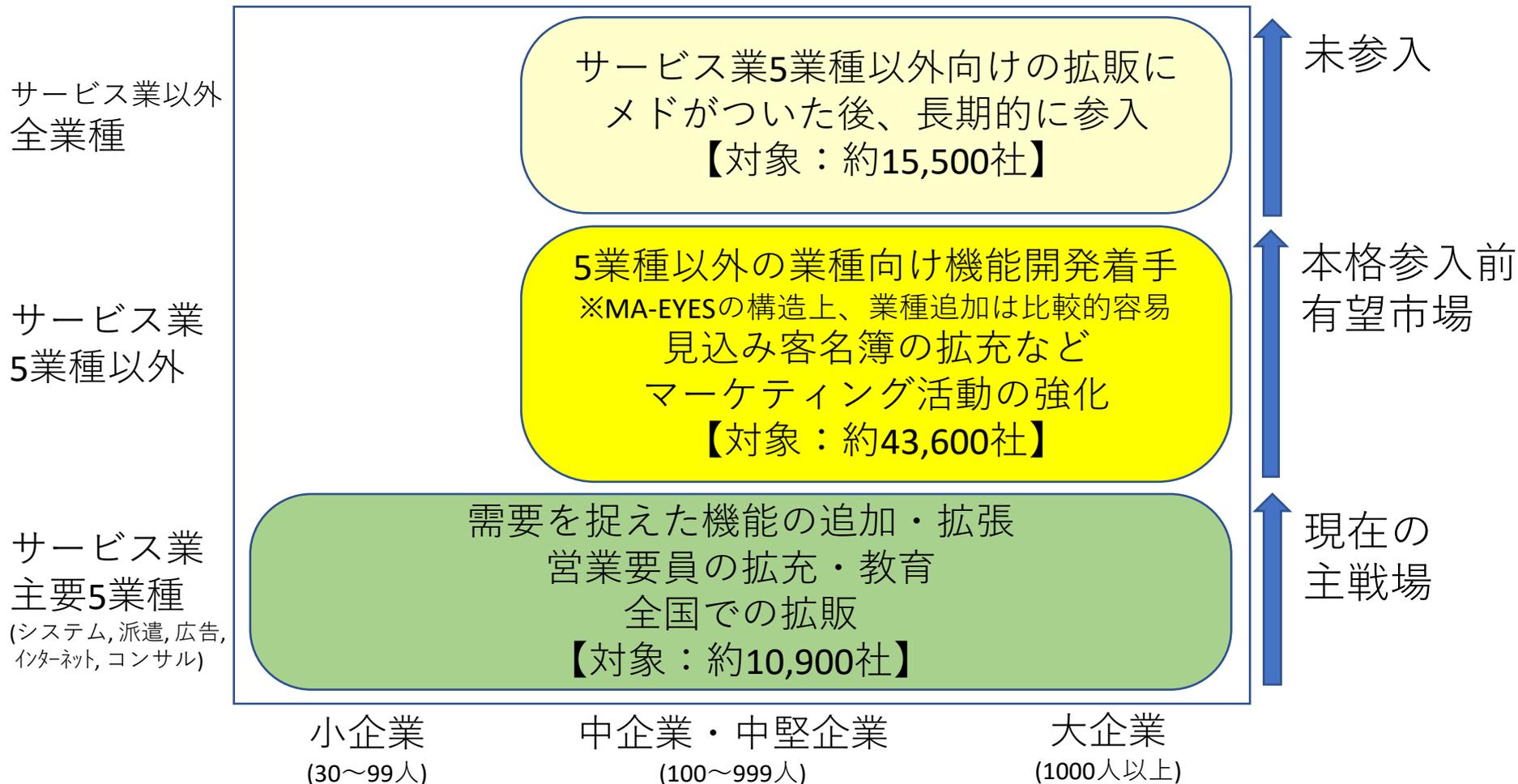
- ・ 開発リソースの共有
- ・ クロスセルの実施
- ・ 技術ノウハウの蓄積・共有

# 成長戦略②

## パッケージ事業のアクション



### 業種毎のソリューションを開発して対象業種を拡大



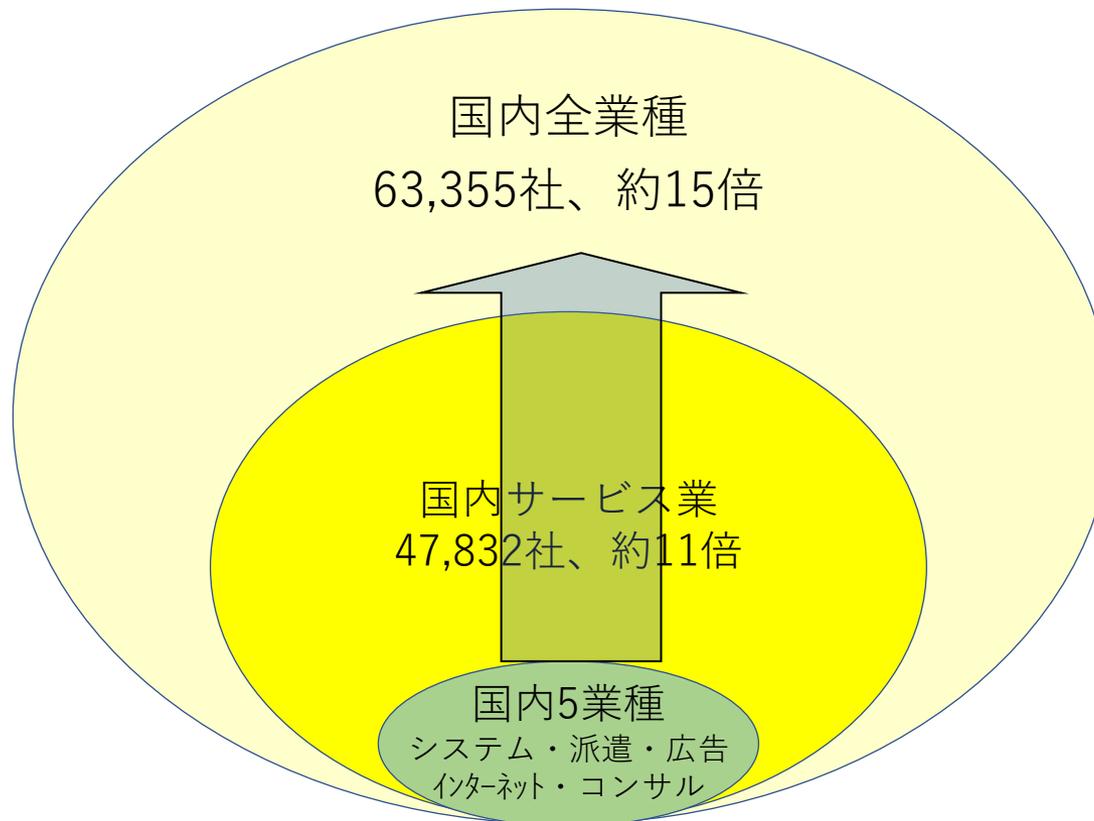
出展：「令和3年経済センサス-活動調査」(総務省統計局)

# 成長戦略③

## クラウドERPの対象業種の拡大



### ▶ 業種毎のソリューションを開発して対象業種を拡大



「国内全業種」，「国内サービス業」の社数は、100名以上の企業数。倍率は4,259社である「国内5業種」の100名以上の企業数と比較した場合の市場の大きさ。

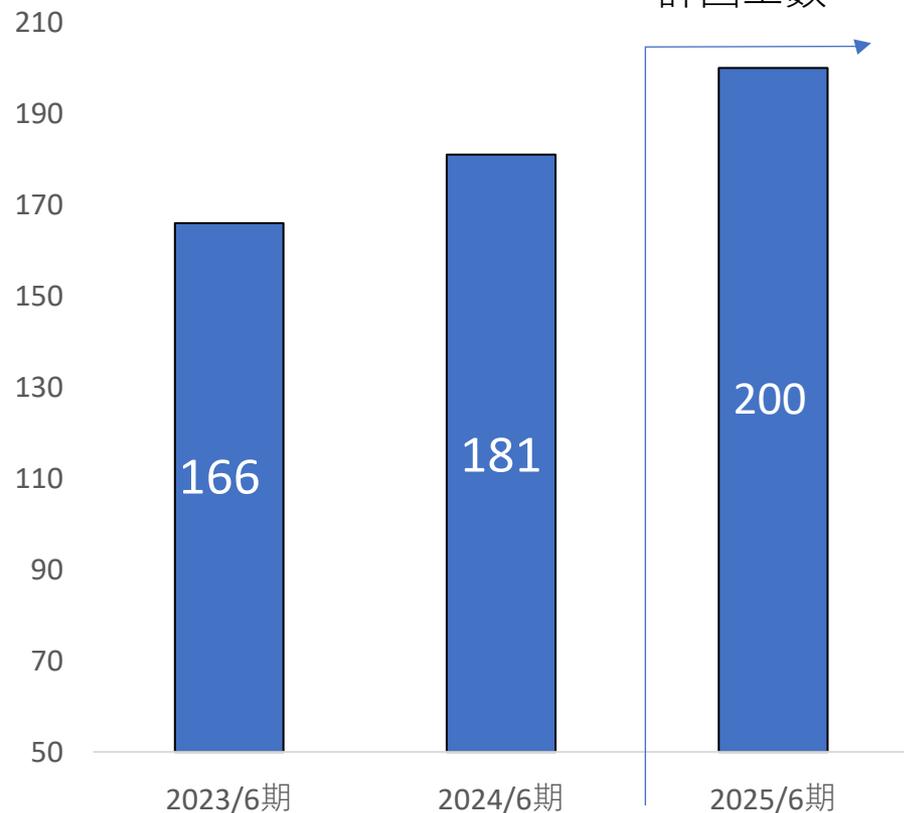
# 成長戦略④

## 研究開発による機能追加・拡張



### 研究開発工数推移

単位：人月



### 直近の機能拡張計画

- ・ 顧客需要の多い機能の追加・拡張
- ・ 重要基盤機能(API、外部連携等)強化
- ・ パラメータ設定での対応範囲拡張
- ・ SaaSの非機能要件への対応強化

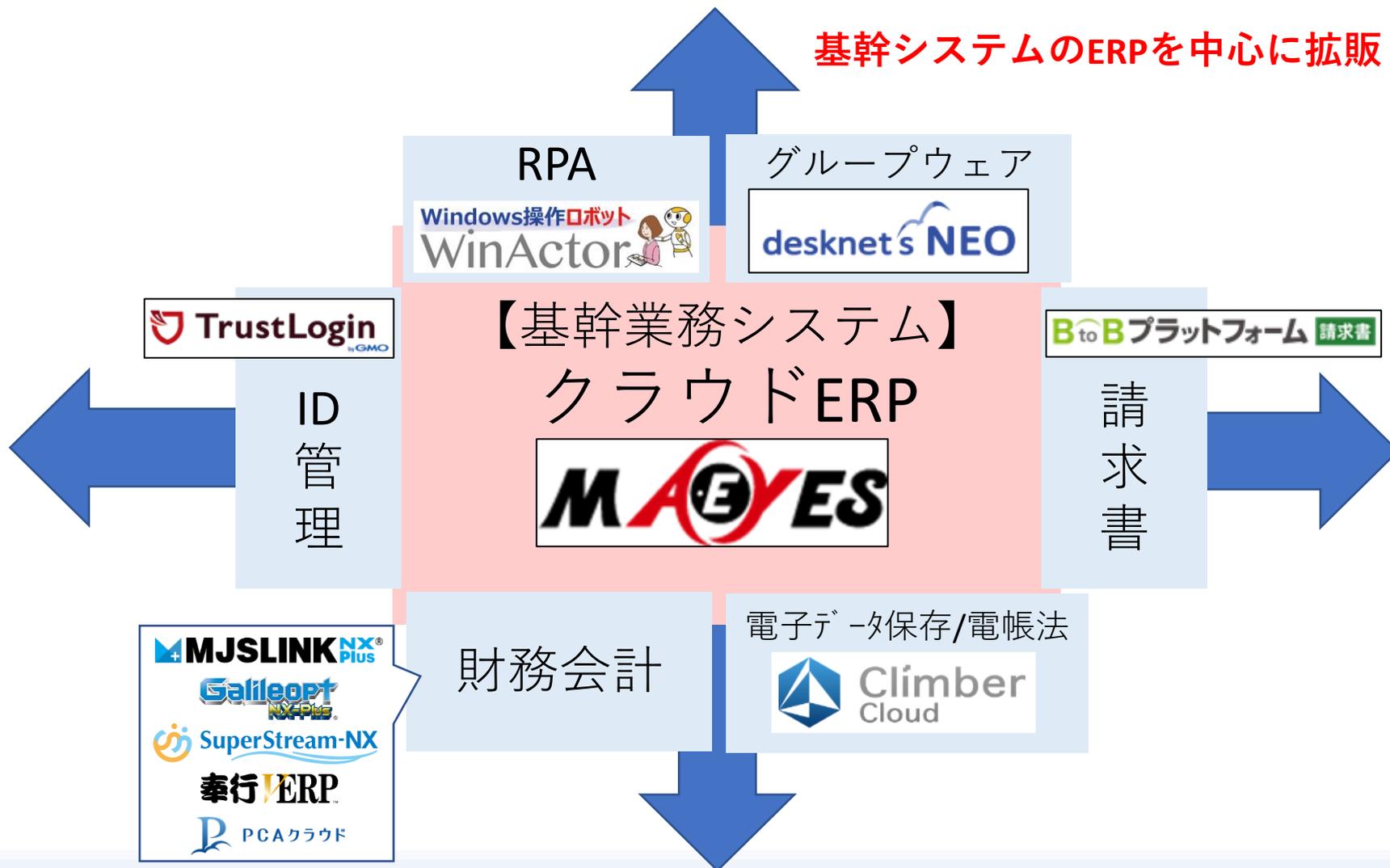


# 成長戦略⑤

## 関連商材によるビジネス拡大



基幹システムのERPを中心に拡販



### 当社の強みを活かし売上利益拡大を目指す

#### 強み

##### Java言語

- 国内外において他言語より安定した需要が見込まれるプログラミング言語
- 創業以来Java言語に特化、研修等を通じてエキスパートを育成

##### 高い技術力

- 自社パッケージ開発やオープンソース・ソフトウェアの公開等から、当社の技術者は技術力が高いと認知されており、高単価での契約価格を維持

#### アクション

- Humalanceによりスキルの高いビジネスパートナーを確保
- 社員技術者のアサイン増・社員教育に注力  
→高スキル技術者により既存取引先を深耕し売上利益拡大
- Humalanceコネクト(転職エージェントサービス)で高スキル求職者確保  
→人材紹介ビジネスの拡大

# 成長戦略⑦

## 営業組織・マーケティング体制の強化



1

### パッケージ販売ルートの新設・強化

#### 1. 出社・在宅勤務のどちらの顧客にもアプローチできる体制の維持・強化

- ・展示会等への出展、個別訪問の実施
- ・Zoom等を用いた個別商談やライブセミナーの実施
- ・当社HPにチャットボット設置

#### 2. 従来型施策の強化・効率化

- ・執筆、広告、SEO、DM、商品HPの拡充など

#### 3. 他社ソフトウェアとの連携強化

- ・電子帳簿保存法対応クラウドサービス「ClimberCloud」
- ・RPAツール「WinActor」
- ・「BtoBプラットフォーム 請求書」「トラスト・ログインbyGMO」「desknet's NEO」「V-ONEクラウド」「Live On」  
など取扱い商材を拡大
- ・共催セミナーの開催

2

### システムインテグレーション事業の強化

Humalanceによる開発リソースの拡充  
人材紹介ビジネスの拡大

3

### 組織・体制の強化

営業要員の継続的な増員および教育

# 具体的アクションおよび進捗



2024年6月期

1

## MA-EYESの新規受注

主要5業種のシェア拡大、一括導入版は当社が得意な単価の高い中堅以上の案件、SaaS版はノンカスカスタマイズSaaS及びSaaS+を拡販

一括導入版は主要5業種ではないサービス業の著名大手企業から新規受注。SaaS版はSaaS+を中心に受注が回復傾向  
前期比マーケティング予算大幅増

2

## MA-EYESのリポート受注

利益率の高いリポート受注を拡大するよう営業活動の活発化、受注機会を逃さないよう開発リソースを確保

上半期は電帳法・インボイス制度等の法改正対応中心に、過去最高水準の売上を計上。通期でも増加

3

## システムインテグレーション事業の売上・利益アップ

Humalanceによる外部リソースの活用推進、社員技術者のアサイン増、及び、既存取引先との取引深耕

Humalanceによる外部リソース活用が定着し、安定的な売上・利益を計上できている  
下半期は社員アサインも増加

4

## MA-EYESの機能拡張

需要動向を捉えた新機能の開発及び既存機能の拡張、長期的な視点での継続的な基盤部分の開発を行う

開発リソースを確保の上で継続的な開発を実施中。顧客ニーズの多い連携機能・分析機能等多くの新機能をリリース

5

## その他

大規模失敗案件の防止

大規模失敗案件は発生していない

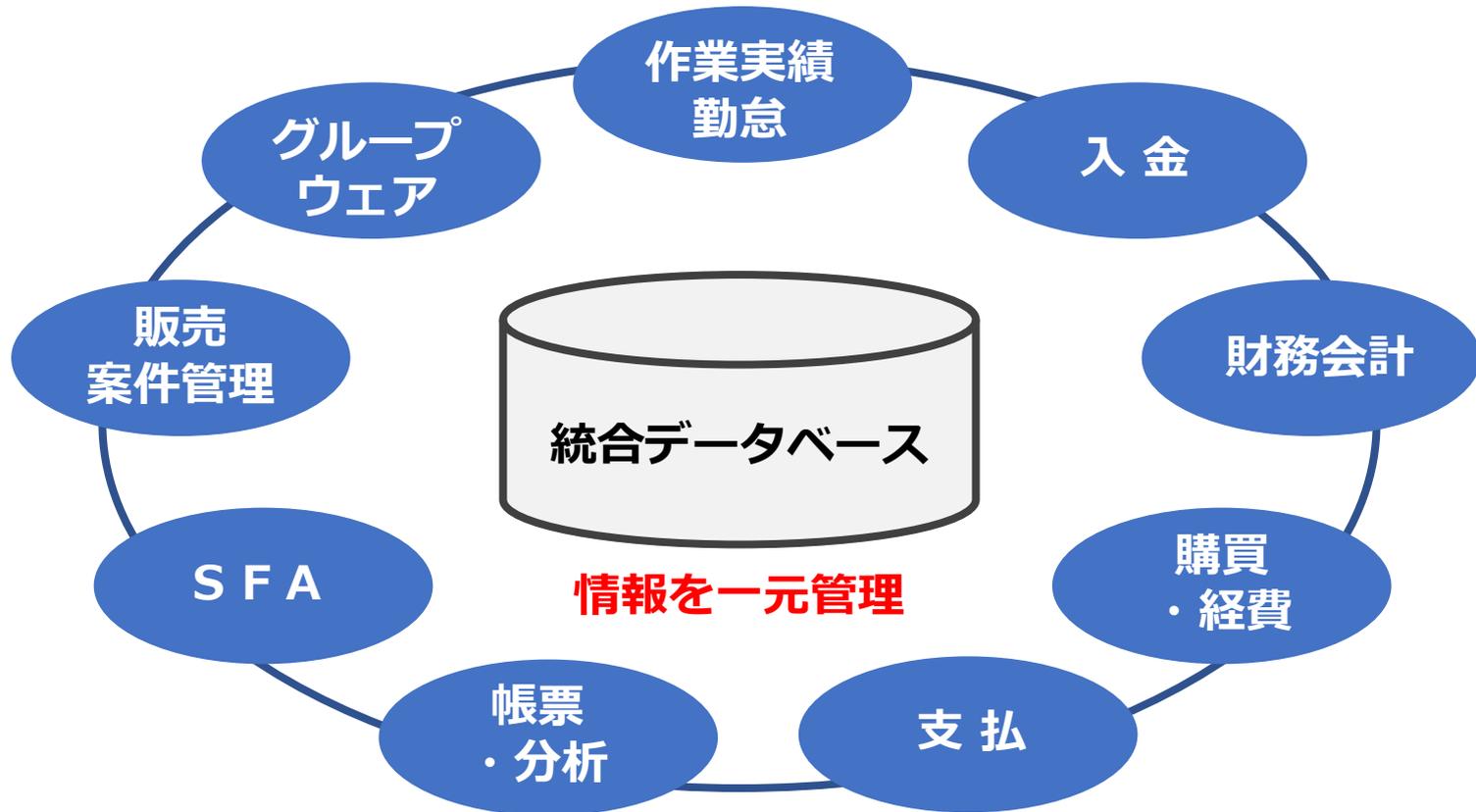
5

# 参考資料

# 当社の主力製品である「ERP」とは



ERP = Enterprise Resource Planning の略語  
日本語では、**統合型基幹業務パッケージソフトウェア**



サービス業の生産性向上や**働き方改革**に貢献

# クラウドERP「MA-EYES」とは



## ・クラウドERP **MA-EYES** (エムエーアイズ) の特長

- ✓ 「ERPの導入が難しい」と言われてきた**サービス業向けに特化**
- ✓ サービス業の業務全般をサポートする**豊富な標準機能**を用意
- ✓ 「労働集約型・プロジェクト型」の業種に特化した機能構成で、**汎用パッケージではカバーしきれない領域をサポート**
- ✓ ユーザー固有の仕様・要望には「**セミオーダー**」で対応
- ✓ 「**一括導入版**」と「**SaaS版**」を選択することが可能

業務とマッチした満足度の高いシステム



ひとクラス上をいく、  
**信頼性・運用性・快適性。**

導入満足度の高さこそがMA-EYESの強みです

一括導入、SaaS型導入対応

セミオーダー構築にも対応

# MAEYES 導入実績



- 当社が上場以前から優位性を持っていたカテゴリー
  - 主要5業種で従業員300名～1000名程度の企業
  - 東京証券取引所の上場企業およびその子会社・関連会社
- 上場後は、対象企業規模が大きくなる傾向

業種別導入実績（一部）

システム開発

インターネット

広告

コンサルティング

 NCD

 IIJ

 DG COMMUNICATIONS

 LiB CONSULTING

 日本プロセス株式会社  
JAPAN PROCESS DEVELOPMENT CO.,LTD.

Internet Initiative Japan

 inifront

 TechFirm

楽天

 JP コミュニケーションズ

 FutureRays

 さらめき、富残り、未来前進。  
株式会社ピクシス・テクノロジーズ

 dwango

 JP コミュニケーションズ

 日本コンサルタンツ株式会社  
Japan International Consultants for Transportation Co., Ltd.

 BTM

 COOSY

 Supership

 TOKYO GAS GROUP  
TOKYO GAS COMMUNICATIONS

 Lts

# 免責事項



本資料は、投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述につきましては、現時点における情報に基づいて判断したものです。予測や前提を含んだ内容となっておりますので、今後の市場環境や経済動向の変化によって、実際の業績が本資料と異なる可能性があります。

本資料は、投資家の皆様が如何なる目的にご利用頂いた場合においても、ご自身の責任とご判断においてご利用頂くことを前提にご提示させて頂くものであり、当社は如何なる場合においてもその責任は負いません。